

編 集 後 記

「胃と腸」も、はや第5号発行の運びとなり、もろもろ、順調に進行を始めたようである。月刊誌というものは、たとえば1年を単位としてぐるぐる内容的に同じ道を回転するものが多いそうであるが、本誌は1年やそこらでは到底、始めの出発点にたちもどれそうもない。

それほど、掲載したい内容が豊富なのである。巷間、本誌の近い将来のゆきづまりを心配して下さっている方がるように聞かすが、その点、どうぞ御心配なく、益々御後援御鞭撻下さるようお願いする。

本号は主題が胃潰瘍〔2〕で、前号に引き続き綜説に、X線の立場より東北大 増田博士、内視鏡の立場より東大 内海博士のそれぞれ特長あるがんちくにとんだ論文が掲載された。熟読玩味をお願いしたい。また本号より展望として、やがては本誌の主題ともなるであろう膵の諸問題を内科の立場より論じた順大 内藤博士の論文が得られたことを喜びたい。症例も興味と教訓にとんだ4症例で、熟読見していただきたい。座談会は、胃潰瘍のIとして、市川博士の司会のもとに「疫学と集検」が掲載されたが、これは今後ひきつづき暫くそのテーマが本誌をにぎわすことであろう。技術解説は、前号で胃カメラ（城所博士）レントゲン（市川博士）を終り、ファイバースコープ（竹本博士）が登場した。本号および次号の2回にわたり掲載される予定である。

本誌の愛読者が急激に増加し、雑誌購入に御迷惑をしばしばおかけしているようであるが、御寛容いただきたい。またその際は直ちに発行所に一報いただきたい。

<崎 田 隆 夫>